

20年以上、母の愛を諦めなかった息子の実話



母さんが  
どんなに  
僕を嫌  
いでも

11.16 [金]  
ROADSHOW

監督：御法川修 脚本：大谷洋介 原作：歌川たいじ「母さんがどんなに僕を嫌いでも」(KADOKAWA刊)

主題歌：ゴスペラーズ「Seven Seas Journey」(キューンミュージック)

製作：古迫智典 堀内大示 福岡更一郎 飯田雅裕 久保田光治 片岡尚 本間欣彦 橋口恵一 渡邊直子 プロデューサー：植村真紀 渡邊直子

ラインプロデューサー：鈴木嘉弘 音楽：YOSHIZUMI 撮影：飯倉陽子 照明：緑川雅範 録音：越川浩道 整音・音響効果：高木 創

美術：花谷秀文 編集：山本彩加 制作担当：保中良介 助監督：藤江俊全

製作：『母さんがどんなに僕を嫌いでも』製作委員会(キューン・テック/KADOKAWA/メーテレ/朝日新聞社/ムサシノ広告社/イオンエンターテイメント/北海道文化放送/ケイズクリエイティブ)

協賛：MBSグループ 特別協力：ホテル三日月 企画：雲間 制作プロダクション：キューン・テック 制作協力：ドラゴンフライ 配給・宣伝：REGENTS

©2018母さんがどんなに僕を嫌いでも製作委員会 hahoboku-movie.jp

太賀 吉田羊  
森崎ウイン  
白石隼也  
秋月三佳  
小山春朋  
斉藤陽一郎  
おかやまはじめ  
木野花





# 胸が張り裂けるような壮絶な過去と向き合い、母の愛を掴み取ろうとした息子の実話が映画化

『母さんがどんなに僕を嫌っても』。胸が張り裂けるような言葉がタイトルのこの映画は、母親から拒絶され、友だちからも愛されることなく育った青年が、母親を大好きな気持ちを諦めることなく運命と向かい合

い、やがて奇跡を引き起こした実話をもとにした作品だ。原作者である歌川たいじが実験をもとに書き綴った原作のコミックエッセイは反響を呼び、小説化、そして遂に映画化されるまでになった。

## 奇跡の実話を紡ぐため、俊才が結集！

主人公・タイジを演じるのは、若手俳優の中でもその演技力の高さに定評のある太賀。タイジを心身ともに傷つけてしまう母・光子役には、実力と人気を兼ね備えた女優・吉田羊。タイジを支える友人・キミツ役を、スティーブン・スピルバーグ監督作品『レディ・プレイヤー1』の

出演で注目を浴びる森崎ウィンや白石隼也、秋月三佳が好演。その他、木野花をはじめとした実力派俳優陣が脇を固めている。主題歌はゴスペラーズが歌う「Seven Seas Journey」。この映画の為に書き下ろした楽曲は澄みきった歌声と強い愛を感じる歌詞が心を打つ。



### STORY

歌川タイジ(太賀)は幼い頃から美しい母・光子(吉田羊)のことが大好きだった。だが、家の中にいる光子はいつも情緒不安定で、タイジの行動にイラつき、容赦なく手を上げる母親だった。

17歳になったタイジは、ある日光子から酷い暴力を受けたことをきっかけに、家を出て1人で生きていく決意をする。

努力を重ね、一流企業の営業職に就いたタイジは、幼い頃の体験のせいでどこか卑屈で自分の殻に閉じこもった大人になっていた。しかし、かけがえのない友人たちの言葉に心を動かされ、再び母と向き合う決意をする。



太賀 吉田羊  
森崎ウィン 白石隼也 秋月三佳 小山春朋 斉藤陽一郎 おかやまはじめ 木野花  
監督:御法川修 脚本:大谷洋介 原作:歌川たいじ『母さんがどんなに僕を嫌っても』(KADOKAWA刊) 主題歌:ゴスペラーズ「Seven Seas Journey」(キューミュージック)  
製作:『母さんがどんなに僕を嫌っても』製作委員会 協賛:IMJ・IMASグループ 特別協力:ホテル三日月 企画:雲間 制作プロダクション:キュー・テック 制作協力:ドラゴンフライ・ミュージック  
配給:宣伝:REGENTS ©2018『母さんがどんなに僕を嫌っても』製作委員会 hahaboku-movie.jp

# 11月16日(金) 全国ロードショー

9月7日より先着プレゼント 限定ポストカードセット(3冊) ムビチケカード ¥1,400 発売予定!

※当日一般¥1,800の席/一部劇場を除く

新宿駅東口 伊勢丹メンズ館そば  
**新宿ピカデリー**  
050-6861-3011

銀座4丁目交差点 和光ウラ通り  
**シネスイッチ銀座**  
03(3561)0707